

讚仏のうた

(導唱)

如来の光顔

巍巍として

(唱和)

けだかくも世に

こえたまい

月日も珠も

ことごとく

そのかがやきを

うしないぬ

げにみ仏の

おん姿

たぐいもあらず

さやかにて

正覚のみ声

高らかに

ひびき十方に

流れゆく

無明の迷い

ましまさず

徳高くして

はかりなし

智慧はゆたかに

その光

ひろく世界に

満ちたもう

われいまここに

願うらく

生死の苦海

過ぎわたり

無上のさとり

ひらき得て

聖法王に

ひとしからん

かさねて誓う

もろびとに

安らぎのみち

与うべし

かならずねがい

果し遂げ

道を求めて

しりぞかじ

ひかりくまなく

徳まどか

国土すぐれて

ならびなし

十方より生まれ

来たるもの

心は清く

安らけし

みそなわしませ

仏たち

ひたすら精進

たとい身は

苦毒のうちに

沈むとも

しのびてついに

悔いあらじ